

NJ境界集水溝の特長

NJ境界集水溝とは・・・ ～歩車道境界ブロック一体型円形側溝～

従来の歩車道境界ブロックの底部に円形水路を備え、境界ブロックの機能と、路側排水溝（L型側溝）の機能を一体化し、プレキャスト化させることで、施工の省力化と路側部の交通環境改善を目指した商品です。

車道部に設けたスリット孔により舗装面の排水を直ちに行えるため、路側部の水たまりが解消され、歩行者等への水跳ねが軽減されます。

スリット孔にはフィルター部材がセットされているので路面排水時のゴミの進入を防止し、また、排水性舗装の浸透水処理を可能としています。

L型側溝等のエプロン部を必要としないことから、道路交通法改正による、自転車の路側走行時の安全性が向上します。

施工性がちがいます。

歩車道境界ブロックと、側溝が一体化しているプレキャスト製品であるため、従来の、現場打ちコンクリートによりL型側溝を構築する工法に比べ、飛躍的に施工性が向上します。

また、短区間施工とした場合でも材料や手間のロスが少ないため、家屋店舗前や通学路など、交通の即日解放が望まれる現場に最適です。



専用集水樹
(施工性を保ちます)

安全、快適な路側環境を提供します。

従来だと・・・



舗装とL型側溝の継ぎ目が進行方向と平行にあるので、2輪車はタイヤを取られて危険！濡れたエプロン部分は滑りやすく危険！水たまりを避けて車道へ飛び出すことも・・・



NJ境界集水溝なら・・・



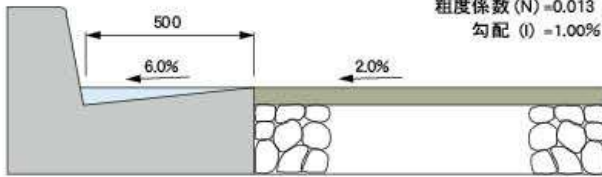
2輪車通行帯に継ぎ目がないので安全。アスファルト舗装と、50cm間隔に設けた取水口により、降雨時でも安全。



ほかにも、掘削幅の縮小による交通規制の緩和や、道路（歩道）有効幅の拡大等、厳しい設計、施工条件に有効です。

優れた排水性能があります。

【従来工法】L型側溝



【新技術工法】境界集水溝 φ150

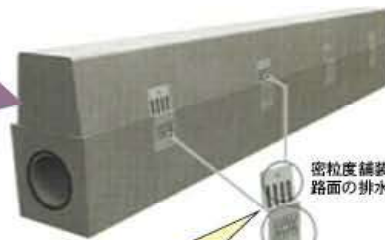


(流下能力)L型側溝=0.0034 (m³/sec)<境界集水溝=0.015 (m³/sec)

管渠寸法をφ150mmとしていますので、従来のL型側溝に比べ優れた流下能力を発揮します。



歩道部排水孔



排水性舗装内部の
浸透水も排水可能

排水性舗装の
排水部



車道部排水孔
(50cm間隔)

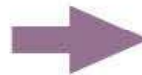


乗入部排水孔

スリットにより、
ゴミの侵入を防止



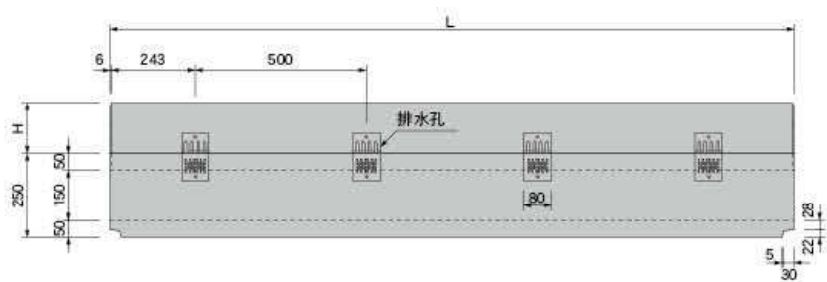
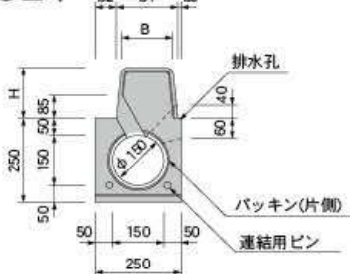
改良前



改良後

単体図

●基本



呼び名	参考質量 (kg)	価格 (円)	寸法(mm)						備考
			B	H	b1	b2	b3	L	
KS-150 両面R型A 基本	315		150	150	180	60	10	1998	
KS-150 両面R型A 乗入れ(車両用)	232		150	—	180	60	10	1998	
KS-150 両面R型A 乗入れ(歩行者用)	218		150	—	180	60	10	1998	
KS-150 両面R型A 切下げ(車両用)	135		150	—	180	60	10	995	
KS-150 両面R型A 切下げ(歩行者用)	132		150	—	180	60	10	995	
KSG-150集水枳	240			—					